

令和 7 年 度
決 算 の 概 要 に つ い て

令和 8 年 9 月 2 4 日

長 岡 市

令和 7 年度 決算の概要について

令和 8 年 9 月 2 4 日

令和 7 年度の一般会計決算は、歳入総額は、1, 543 億 8, 827 万 3 千円、対前年比 112 億 9, 946 万 3 千円（7. 9%）の増、歳出総額は、1, 483 億 6, 722 万 6 千円、対前年比 113 億 464 万円（8. 2%）の増で、差し引き形式収支は、60 億 2, 104 万 7 千円となり、ここから翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支黒字額は、前年度と同規模の 50 億 4, 174 万 7 千円となりました。

物価高騰や賃金水準の急激な上昇等に伴う一般財源の負担は引き続き増加傾向にあるものの、基幹収入である市税や地方消費税交付金等が伸びたことなどにより、実質単年度収支は 4, 889 万 9 千円と 3 年ぶりの黒字となりました。

歳出については、人口減少・少子高齢化の進行に加え、人手不足や物価高騰などにより市民生活が大きな影響を受ける中、医療や福祉、困難を抱える人への支援の充実を図るとともに、市民総ぐるみの防災体制の強化や生活環境の維持・確保に取り組み、安全・安心で誰にも優しく寄り添う市民協働のまちづくりを進めました。

子どもや若者の育ちと学び、夢への支援では、米百俵の人材育成として、多様な学びの場の提供や教育環境の充実を図るとともに、発達支援の「長岡モデル」と子育てしやすいまちへ向けた体制の整備を進めました。

イノベーションとDX支援による産業のさらなる成長では、地域DXの推進や地域経済の下支えに加えて、産業界の多様な人材の確保と人手不足対策に取り組みました。

長岡の歴史・魅力の発信と地域を元気にする活動の推進では、歴史文化と伝統を継承し、観光資源の魅力向上による関係・交流人口の拡大を図ったほか、文化やスポーツで楽しく元気になる環境の整備を進めました。

次に、令和 7 年度に実施した主要な事業について、説明いたします。

I 安全・安心で誰にも優しく寄り添う市民協働のまちづくり

1 医療・福祉の充実と困難を抱える人への支援

① 中越圏域における救急医療体制の維持

中越地域の救急医療と高度医療の体制を堅持し、市民に安定した地域医療を提供するため、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、立川総合病院の運営経費に対して、医師や看護師の確保などに対応した市独自の財政支援を行いました。

② 困難を抱える女性に対する支援の充実

DVや性暴力、ストーカー等により安全な居場所を必要とする女性に対し、ステップハウスや安心して悩みを相談できる居場所を提供し、中・長期的な支援を実施したほか、新たにアウトリーチ事業として4支所地域において講座及び座談会を開催し、支援機関や支援制度の周知と参加者同士の交流を図りました。

2 市民総ぐるみの防災体制の強化

① 災害時の情報収集・伝達手段の強化

市民への迅速かつ確実な情報伝達のため、災害時に避難情報等を自動発信する機能を拡充し、情報発信業務を一元化しました。

また、気象情報や庁内各部局からの被害情報等の収集・共有を効率化するため、共通データベースシステムの構築等に取り組みました。

② 避難行動要支援者の支援

信濃川浸水想定域に居住している避難行動要支援者を中心に個別避難計画の早期作成を進めるため、福祉専門職による周知や啓発に努めた結果、362人分の計画を作成しました。

3 安心して住み続けられる生活環境の維持・確保

① 豪雪地帯の除雪支援

冬期間の安全・安心な暮らしを確保するため、栃尾地域の一部をモデル地区とし、自力での除雪が困難な高齢者世帯等の玄関前除雪を支援する取組を試行実施したほか、地域における除雪の担い手不足の解消に向け、雪かき人材と除雪共助組織をマッチングする制度の普及に取り組みました。

② 鳥獣被害対策の拡充

野生鳥獣を誘引する不要果樹の伐採、藪や耕作放棄地の刈り払いによる緩衝帯の整備など、鳥獣を集落に寄せ付けない地域ぐるみの取組を支援しました。

また、鳥獣被害対策実施隊のクマ捕獲に対する報奨金を新設したほか、栃尾地域に専門職員を配置し体制を強化するとともに、GPS首輪などのICT技術の導入により、効率的・効果的なサル対策を講じました。

③ 与板地域交流拠点施設の整備

地域の活力と交流、賑わいを創出するため、支所庁舎やコミュニティセンター等を再編・集約した複合型の地域交流拠点施設「いこいね☆よいた」を整備し、令和8年1月にオープンしました。

④ 物価高騰対策の実施（学校給食費支援補助金）

栄養バランスや量を保った学校給食を引き続き提供できるよう、市内小・中学校及び総合支援学校の給食費を支援し、保護者負担を軽減しました。

Ⅱ 子どもや若者の育ちと学び、夢への支援

1 「米百俵の人材育成」による多様な学びの場の提供と教育環境の充実

① 休日の中学校部活動の地域移行に向けた環境の整備

中学生がなるべく身近な場所で希望する活動に取り組むことができる環境の整備を進め、令和7年9月に全市一斉に認定地域クラブ活動「ながおかCome 100クラブ活動」を開始しました。

また、経済的困窮世帯と遠距離の参加者や、ながおかCome 100クラブ活動以外のスポーツ・文化芸術活動団体への支援などを行いました。

② 米百俵プレイスミライエ長岡で多様な学びの場の提供

中学生向けにプログラミングなどのデジタル技術を学ぶ13回の連続講座を長岡高専の協力を得て開催したほか、ものづくりや商品開発に関する講座や、地域おこし協力隊の企画など、中高生に多様な学びの場を提供しました。

③ 不登校児童生徒の支援体制の充実

教室で過ごすことのできない児童生徒の安心できる居場所づくりを進め、学校や家庭、関係機関との連携強化を図ることで、個々の状態に応じた適切な支援につなげるため、4中学校区内の4校に不登校児童生徒のための校内教育支援センター支援員をそれぞれ配置するとともに、14小・中学校に校内教育支援センターの環境を整備しました。

2 発達支援の「長岡モデル」と子育てしやすいまちへ向けた体制整備

① こどもの発達相談・サポート体制の充実強化

母子保健と児童福祉を一体的に運営する新たな組織として、「こども家庭センター」を設置し、保健師が妊婦や子どもの成長に応じ、個々の家庭を切れ目なく伴走型で支援する体制を強化しました。

また、「こども発達相談室」に発達支援アドバイザーを増員し、730件の電話・来室相談に対応したほか、「みらいのたねサポートチーム」が園や学校等へ出かけて、就学前447人、就学後76人の子どもをサポートするなど、相談支援体制の充実を図りました。

② 児童クラブ・児童会館のサービス向上

市内全ての公設児童クラブ・児童会館の運営を新たに民間事業者に業務委託し、就労等で放課後に見守りができない家庭の児童を対象に、安全・安心な居場所を提供し、児童の健全育成を図るとともに、児童の入退館システム及び延長利用料金のキャッシュレス決済を導入し、保護者の利便性向上を図りました。

Ⅲ イノベーションとDX支援による産業のさらなる成長

1 地域のDX推進と循環型社会に対応した新産業の創出

① AI活用による産業界のイノベーション推進と地域活性化

ながおかDXセンターを拠点に、市民と企業、行政が参加し、ローカルLLMを活用した生成AIアプリケーションを試作するなど、AIを安全かつ効果的に使うための社会実証に取り組みました。

また、産学連携の創出を目的として、大学シーズと企業ニーズを結び付け、最適な教授・研究分野を提案する産学連携AIマッチングシステムを開発し、相談対応を開始しました。

② 長岡市カーボンニュートラルチャレンジ戦略2050の推進

「雪国太陽光発電施工チャレンジプロジェクト」として、市内企業の太陽光発電事業への参画を促進するため、トキと自然の学習館で施工実習を行うとともに、全11回、延べ292人が参加した研修会を開催することで、施工に関する知識及び技術を有する事業者の育成を図りました。

また、太陽光発電設備79件、蓄電池65件、^{ゼ ッ チ} ZEH住宅8件の導入経費の一部支援を行い、再生可能エネルギーの普及促進により温室

効果ガス排出量の削減を図りました。

2 物価高騰等の環境変化に対応した地域経済の下支え

① ながおかペイによる消費喚起と地域経済の活性化

チャージ機の導入や利用店舗数の増加により利便性が向上したほか、チャージキャンペーンの実施による利用促進を図り、ながおかペイの登録者数は1年間で2, 218人増加し、決済額は約4億5千万円となりました。

② 長岡産食材のプロモーションの推進

長岡産食材の消費拡大及びブランド化を推進するため、長岡商工会議所や長岡観光コンベンション協会と連携して、各種イベントやフェアを開催し、首都圏におけるプロモーション活動などの情報発信を強化しました。

また、中山間地域で生産された農産物ブランド「NAGAOKA MOUNTAIN GIFTS」のプロモーションを開始し、販売促進ツールの製作やイベント開催を通じて認知度向上を図りました。

3 産業界の多様な人材の確保と人手不足対策

① 働く女性の支援

女性の多様な働き方を支援するため、「女性のための在宅ワーク入門&スキルアップセミナー」を全7回開催しました。受講者のうち、13人が就労につながるなど、就労機会の拡大を図りました。

② 企業のデジタルワーカーの活用支援

企業向けにテレワークの事例紹介や業務の割り振り方などについて学ぶセミナーを開催し、15社17人が参加しました。また、セミナーに参加した9社に対しフォローアップ支援を行い、テレワーク導入に向けた取組につながりました。

③ 人材確保のための奨学金返還支援

市内中小企業等の人手不足を解消し、若者の就労を促進するため、市内に在住する３０歳以下の従業員の奨学金返還費用を支援する事業者に対して、市が当該給付額の一部を助成する制度を創設し、企業と学校法人合わせて９社１８人分の取組を支援しました。

Ⅳ 長岡の歴史・魅力の発信と地域を元気にする活動の推進

１ 歴史文化・伝統の継承と観光資源の魅力向上

① 長岡空襲・戦後８０年事業

８０年の節目の年に当たり、特別企画展を開催したほか、デジタル技術を活用して長岡空襲の史実と復興の軌跡を学ぶワークショップを開催するなど、新たな伝承事業に取り組みました。

また、戦災資料館専用のホームページを構築し、被災資料等のデジタルアーカイブを作成しました。

② 通年観光による長岡の認知度向上

「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を契機に、佐渡島への旅行需要を本市への誘客につなげる事業を実施し、団体旅行商品の造成で３８８人分及び個人旅行者向けキャンペーンで９５人分の市内宿泊にそれぞれつながりました。

また、国営越後丘陵公園で開催された「ながおか米百俵フェス」の運営を支援し、２日間で延べ２０，０００人が来場するなど、本市の魅力発信と交流人口の拡大を図りました。

③ 合併２０周年記念事業

まちづくりの歩みを振り返り、将来に向けた一体感の醸成を図るため、長岡青年会議所と連携した合併２０周年記念事業を実施しました。

また、合併２０周年市民企画事業補助金として、地域資源を活用した魅力発信や地域活性化に取り組む市民主体の９団体による新たな取

組である１０事業を支援し、地域への愛着や誇りの醸成による地域力の向上と市全体の魅力向上につなげました。

2 文化やスポーツで楽しく元気になる環境の整備

① 文化芸術分野の全国大会出場者に対する報奨金制度の創設

全国大会等に出場する高校生以上の市民等の栄誉を称えるとともに、文化芸術活動の一層の振興を図るため、報奨金制度を創設し、６種目７４人に交付しました。

② 新たなスポーツの推進

アーバンスポーツの普及を目的に「長岡アーバンスポーツフェス」を開催し、体験会やパフォーマンスを通じて、市内で活動する団体や活動場所の認知度向上を図りました。

また、公共施設にｅスポーツの無料体験ブースを設置し、子どもから高齢者まで幅広い世代の体験機会を創出することで、関心や理解の促進を図りました。

以上で主要な事業の説明を終わり、次に、歳出の各款別の支出状況について申し上げます。

《議会費》は、５億３，０５７万円で、

対前年比５３３万６千円（１．０％）の減であります。

主な内容は、市議会議員共済会負担金の減であります。

《総務費》は、２１９億６，４５０万８千円で、

対前年比２０億６，７７７万７千円（１０．４％）の増であります。

主な内容は、与板地域交流拠点施設整備事業費１０億７，３５４万８千円、長岡戦災資料館移転整備事業費１０億２，２５３万３千円の増であります。

《民生費》は、４５４億３，２９４万円で、

対前年比８億８，０３８万８千円（１．９％）の減であります。

主な内容は、物価高騰対応重点支援給付事業費２６億２，８２１万９千円、私立認可保育所等施設整備費７億１，０６３万５千円の減であります。

《衛生費》は、９１億６，０９７万１千円で、

対前年比４，５４９万７千円（０．５％）の減であります。

主な内容は、予防接種事業費２億１，４４２万７千円の減であります。

《労働費》は、３億３，６５８万３千円で、

対前年比４，６９５万５千円（１６．２％）の増であります。

主な内容は、職業技能センター移転事業費３，９１６万７千円の増であります。

《農林水産業費》は、２８億６，８６９万１千円で、

対前年比４，４３６万２千円（１．６％）の増であります。

主な内容は、土地改良施設整備事業費５，１４９万９千円、団体営土地改良事業費４，３９４万８千円の増であります。

《商工費》は、３１億８，５９７万９千円で、

対前年比１億１，６９６万１千円（３．５％）の減であります。

主な内容は、企業誘致促進事業費２億２，０２６万８千円、産業団地基盤整備事業費１億２，２１０万円の減であります。

《土木費》は、２２２億７，２６５万１千円で、

対前年比４６億７，８３３万円（２６．６％）の増であります。

主な内容は、米百俵プレイスミライエ長岡整備事業費３２億７，１１２万４千円、大手通坂之上町地区市街地再開発事業費１４億７，２４８万２千円の増であります。

《消防費》は、１０２億３，３６０万５千円で、

対前年比２１億３，８９７万３千円（２６．４％）の増であります。

主な内容は、栃尾地域防災拠点整備事業費７億７，２２６万４千円、消防救急デジタル無線災害対応強化整備事業費５億３，７０９万７千円、道路除雪費４億９，９２３万６千円の増であります。

《教育費》は、１５６億４，９８２万１千円で、

対前年比２９億７，７６４万４千円（２３．５％）の増であります。

主な内容は、小学校大規模改造事業費２０億５，１５７万７千円、悠久山地区整備事業費２億６，３７６万５千円、寺泊海浜公園整備事業費２億２，５１６万１千円の増であります。

《災害復旧費》は、１億６，０８５万２千円で、

対前年比９，９６９万８千円（１６３．０％）の増であります。

主な内容は、令和７年融雪災害復旧事業費８，２０８万２千円の増であります。

《公債費》は、１６５億７，００５万５千円で、

対前年比２億９，９０８万３千円（１．８％）の増であります。

主な内容は、長期債償還元金１億７，４６５万８千円、長期債償還利子１億１，７９６万１千円の増であります。

次に、下水道事業会計と水道事業会計、簡易水道事業会計を含む特別会計について申し上げます。

歳入総額は、７７３億８，６０２万１千円、対前年比１億６，０４６万２千円（０．２％）の増、歳出総額は、８２１億１７２万４千円、対前年比１億６，６３７万９千円（０．２％）の増であります。

歳出の主な内容は、介護保険事業特別会計４億９，６１４万１千円（１．７％）、水道事業会計４億５，４４２万７千円（４．７％）の

増、国民健康保険事業特別会計 6 億 2, 4 5 7 万 4 千円 (2. 8 %) の減であります。

なお、一般会計と特別会計の総額は、歳入では 2, 3 1 7 億 7, 4 2 9 万 4 千円、歳出では 2, 3 0 4 億 6, 8 9 5 万円であります。

次に、令和 7 年度における「財政調整基金等の状況」、「財政指標」及び「健全化判断比率」について申し上げます。

《財政調整基金等》

令和 7 年度末現在（出納閉鎖時）の残高は、

- 財政調整基金 8 8 億 7, 2 9 0 万 4 千円
 - 減債基金 2 1 億 4, 8 3 5 万 3 千円
 - 都市整備基金 2 8 億 8, 7 8 9 万 7 千円
- 【3 基金の合計 1 3 9 億 9 1 5 万 4 千円】です。

《財政指標》

- 1 財政力指数は 0. 5 8 6 で、前年度の 0. 5 8 9 に比較して 0. 0 0 3 ポイント低下しました。
- 2 経常収支比率は 9 5. 7 % で、前年度の 9 6. 1 % に比較して 0. 4 ポイント低下しました。

《健全化判断比率》

- 1 実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、赤字の会計がないため数値がありませんでした。
- 2 実質公債費比率は 8. 5 % で、前年度の 8. 0 % に比較して 0. 5 ポイント上昇しました。
(参考：早期健全化基準 2 5. 0 %)

- 3 将来負担比率は83.1%で、前年度の74.6%に比較して8.5ポイント上昇しました。
(参考：早期健全化基準350.0%)

以上、令和7年度の決算概要について申し上げましたが、決算の内容については、「令和7年度長岡市一般会計・特別会計・下水道事業会計・水道事業会計・簡易水道事業会計決算書」のとおりです。

また、予算執行状況の詳細については、一般会計と特別会計は「令和7年度主要施策の成果及び予算執行実績の報告書」、下水道事業会計は「令和7年度下水道事業会計決算書」の事業報告書、水道事業会計は「令和7年度水道事業会計決算書」の事業報告書、簡易水道事業会計は「令和7年度簡易水道事業会計決算書」の事業報告書のとおりです。